住民アンケート調査結果（速報）の概要について

参考資料１-２

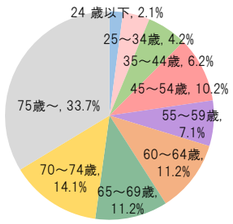
調査概要

- 実施期間：　R8.8.3 配布から R8.9.11 回答着分まで
  ※本資料で示す第一集計は R8.8.18 到着分までの集計
- 調査対象者：　①住民（令和8年7月時点で住民基本台帳の中から無作為に抽出）：1,800 名
  ②能勢分校生（8月 25 日配布、9月16日回収）：69名
- 調査・回答方法：　①郵送配布・郵送回収、郵送配布・WEB回答
  ②対面配布、書面・WEB回答

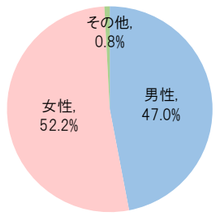
アンケート用紙配布数	1,800 票
アンケート用紙回収数（Web 回答含む）	509 票
有効回答数	509 票
回収率	28.3%

回答者属性

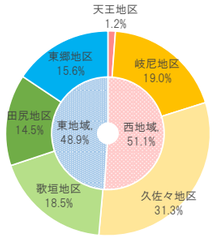
【年齢】　N=481



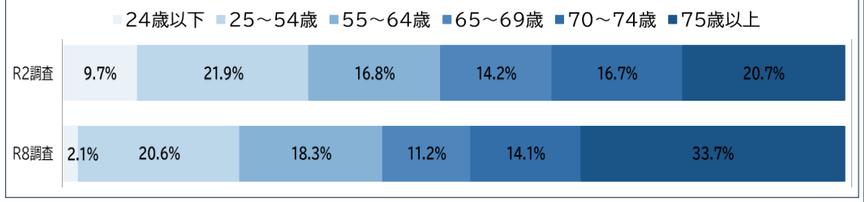
【性別】　N=481



【居住地域】　N=422



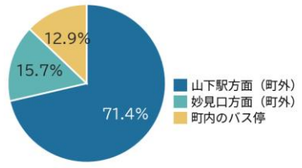
【参考】R2 調査時と R8（今回）調査時の回答者年代比較



目標②　公共交通機関相互の連携強化と利便性の向上

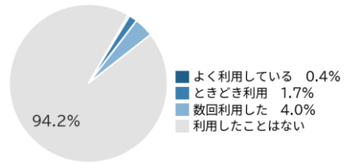
関連する評価指標：基幹交通による町外への移動者数／地域交通の利用者数（関連：収支率（妙見口能勢線代替交通・能勢町乗合タクシー））

［基幹交通による町外への移動］
Q. よく利用するバス停はどこですか？（記述回答を方面別に集計）



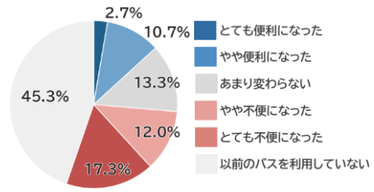
n=70件

［収支率（妙見口能勢線代替交通）］
Q. 『妙見口のせ号』を利用したことがありますか？



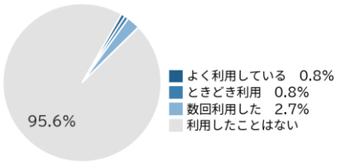
n=481

［地域交通の利用者数］
Q. 以前の路線バスと比べて、のせ号をどう感じますか？（のせ号利用経験者）



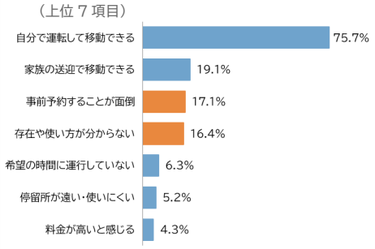
n=75

［収支率（能勢町乗合タクシー）］
Q. 『乗合タクシー』を利用したことがありますか？

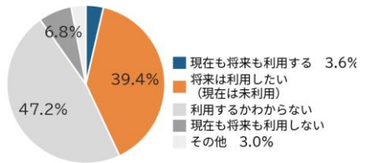


n=478

［地域交通の利用者数］
Q. 『乗合タクシー』を利用したことがない理由（上位７項目）



［地域交通の利用者数］
Q. 今後の『乗合タクシー』の利用について



n=472

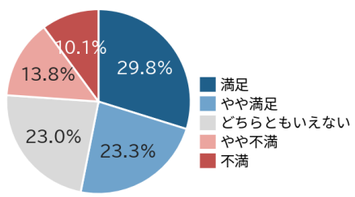
▸ バスは鉄道駅へのアクセスが中心。のせ号・乗合タクシーの利用経験はいずれも 5%前後

・よく利用するバス停は山下駅・妙見口方面など町外が 87.1%で、町外への移動（鉄道との乗継ぎ）が主な目的となっている。
・のせ号の利用者では、以前の路線バスより「やや・とても不便になった」29.3%が「とても・やや便利になった」13.4%を上回る。
・乗合タクシーを利用しない理由は「自分で運転できる」75.7%が中心だが、「予約が面倒」17.1%、「存在や使い方が分からない」16.4%も一定数あり、一方で「将来は利用したい」が 39.4%と今後の利用意向があるため、より一層の利用促進への取組が必要。

目標①　持続可能な公共交通ネットワークの構築

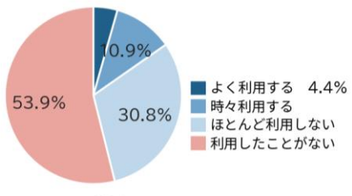
関連する評価指標：公共交通カバー面積／公共交通への財政負担金額／公共交通事業の収支率

［公共交通カバー面積］
Q. 日々の生活で、移動に満足されていますか？



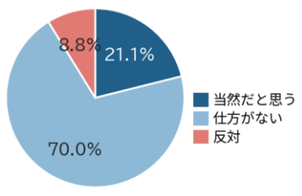
n=486

［収支率（路線バス）］
Q. 能勢町内のバスを利用したことがありますか？



n=497

［財政負担金額］
Q. バスを維持・充実するために町が経費を負担することについて



n=464

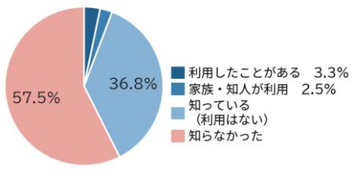
▸ 町の経費負担は 9 割超が容認する一方、路線バスの利用は低調

・普段の移動は「満足（満足＋やや満足）」53.1%、「不満（やや不満＋不満）」23.9%となっている。
・町内のバスを「利用したことがない」が 53.9%と過半数。「よく・時々利用する」は 15.3%にとどまる。
・町の経費負担は「当然」「仕方がない」で 91.2%が容認。維持・充実に向けた取り組みについては「町が財政負担」36.2%、「運賃値上げ」33.0%、「縮小・減便」14.5%となっている。

目標③　公共交通をみんなで創り、守り、育てる意識の醸成

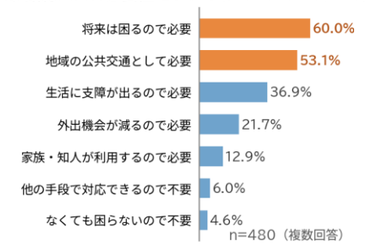
関連する評価指標：公共交通利用促進を図る取組み実績数／公共交通利用者数

［利用促進の取組み］
Q. 『交通空白地有償運送』をご存知ですか？



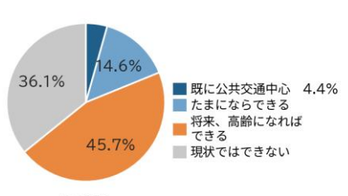
n=489

［公共交通利用者数］
Q. 路線バスの必要性について（あてはまるものすべて）



n=480（複数回答）

［公共交通利用者数］
Q. 自家用車中心から公共交通中心の生活に転換できますか？



n=451

▸ 公共交通の必要性は広く認識されているが、利用への転換は「将来」の意向が中心

・交通空白地有償運送を「知らなかった」が 57.5%となっている。
・路線バスは「将来は困るので必要」60.0%、「地域の公共交通として必要」53.1%。「必要はない」は約１割となっている。
・公共交通中心の生活への転換は「将来、高齢になればできる」45.7%、「現状ではできない」36.1%という結果となっている。